

イトリゲモ

Najas japonica Nakai

イバラモ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

石川県ではもともと稀産の種類であるが、近年、生育を確認することができない。(現況:R-)

形態

非常に細く繊細で、盛んに分枝する。各節に5輪生状に葉を着け、葉身の大きさは約1.5cm、幅は0.2mmで糸状。葉縁に細かな鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり先端は切形で小刺がある。雌雄同株で各節に1個の雄花と2個の雌花ができる。本種の特徴は各節に2個ずつ果実ができることであるが、多種でも稀に見ることがあるので他の形質と併せて検討する必要がある。

国内分布

北海道(稀)、本州、四国、九州に分布。東アジアに分布、イタリアに帰化という。

県内分布

近年の調査では報告がなかったが、今回、南加賀区、外浦区で確認された。

生態など

沈水性一年生草本。花期は8～9月。かつては水田雑草だったこともあるという。

生育環境

池沼。

危険要因

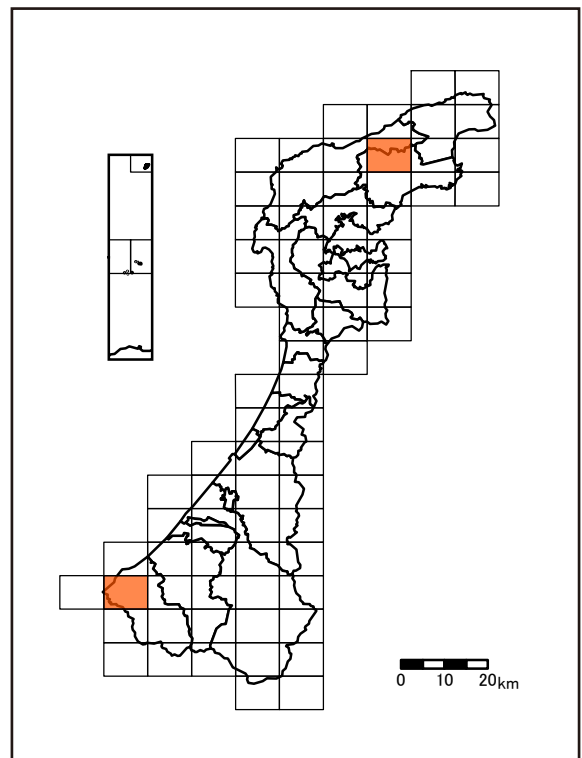
農薬汚染。

特記事項

確かな標本がないが、確かな文献記録がある。
小牧旌.1987. 加賀能登の植物図譜. 273pp. 加賀能登の植物図譜刊行会。



古場田良次・2001年7月17日・加賀市



県内の分布